

佐川急便株式会社 取組紹介

「私たちはイノベーションを起こし、社会に必要とされ続ける物流を創ることに挑みます。」

Chapter 1

会社紹介



商号 佐川急便株式会社 (SAGAWA EXPRESS CO.,LTD.)

設立日 1965 (昭和40) 年11月24日

事業内容 宅配便など各種輸送にかかわる事業

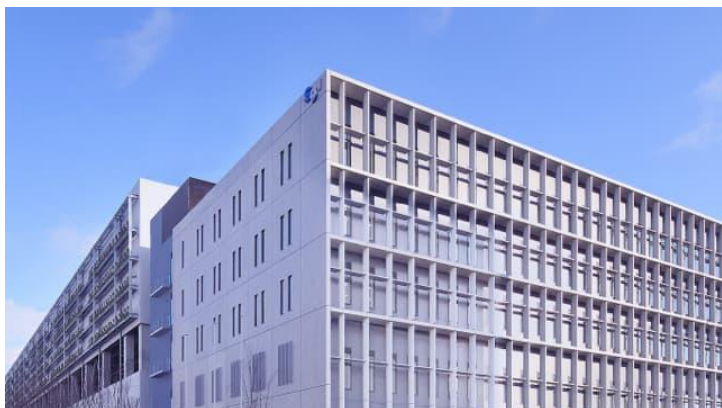
所在地 京都市南区上烏羽角田町68番地

代表取締役社長 笹森 公彰

資本金 112億7,500万円

従業員数 50,949人 ※

車両保有台数 25,629台 (軽自動車含む) ※

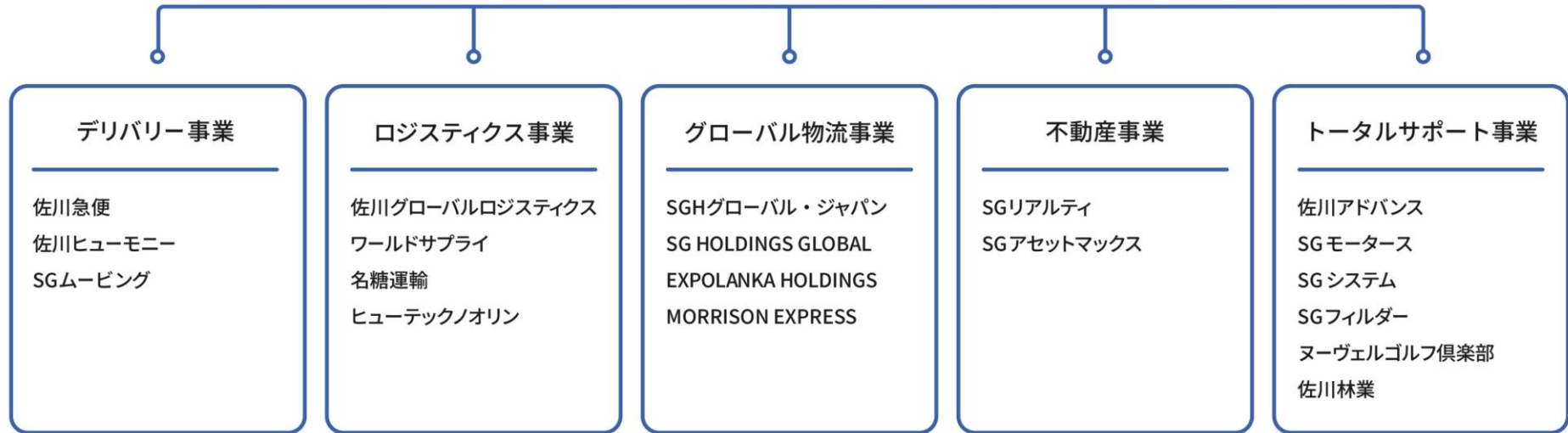


※2025年3月期 現在

SGホールディングスグループについて

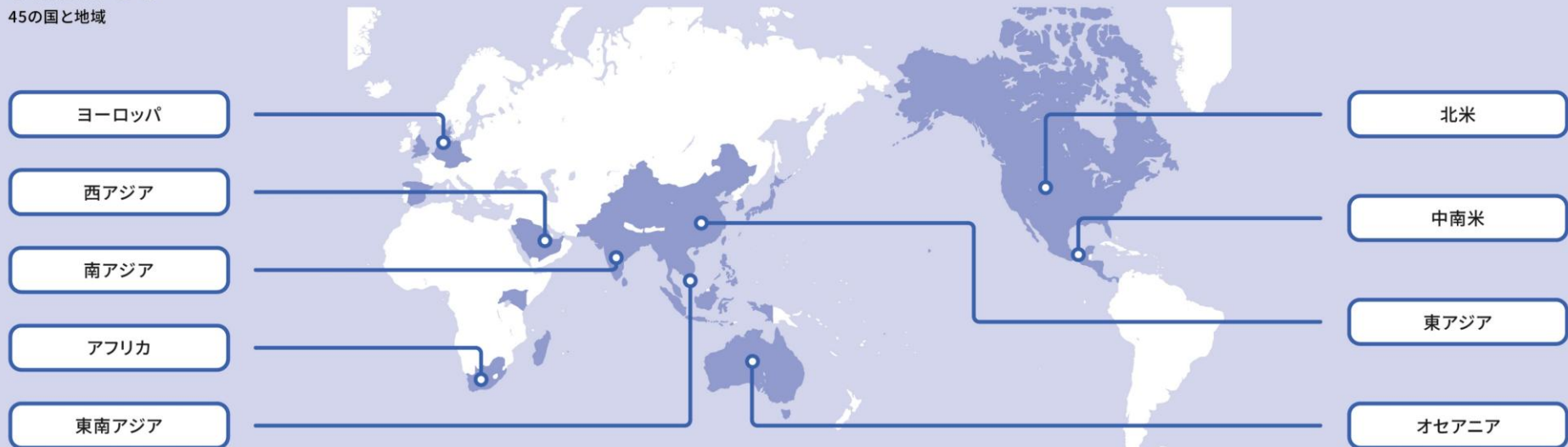
主要グループ会社

SGH SGホールディングス



事業展開地域

45の国と地域



Chapter 2

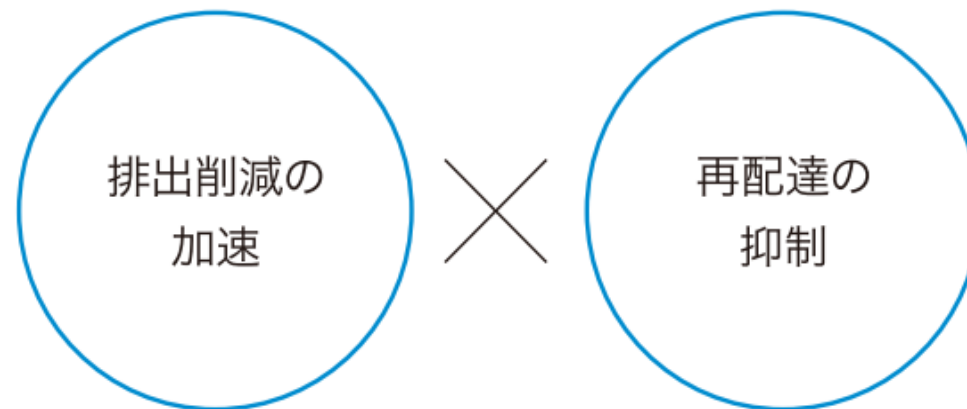
カーボンフットプリント (CFP)



CFP（カーボンフットプリント）の算定目的

当社グループは脱炭素ビジョンを掲げ、2030年度までに燃料使用に伴うScope1および電力使用に伴うScope2の総排出量を、**2013年度比46%削減、2050年度にカーボンニュートラル**を目指して取り組みを進めています。

上記目標のもと、当社サービスのライフサイクルにおける**GHG(温室効果ガス)排出量の削減**を目的に、また**再配達抑制**といったお客さまに「エコな選択肢」を提供する**第一歩**として、最も利用が多いサービスの一つである「飛脚宅配便」を用いて、当該製品のCFP定量化や可視化に取り組みます。



算定対象

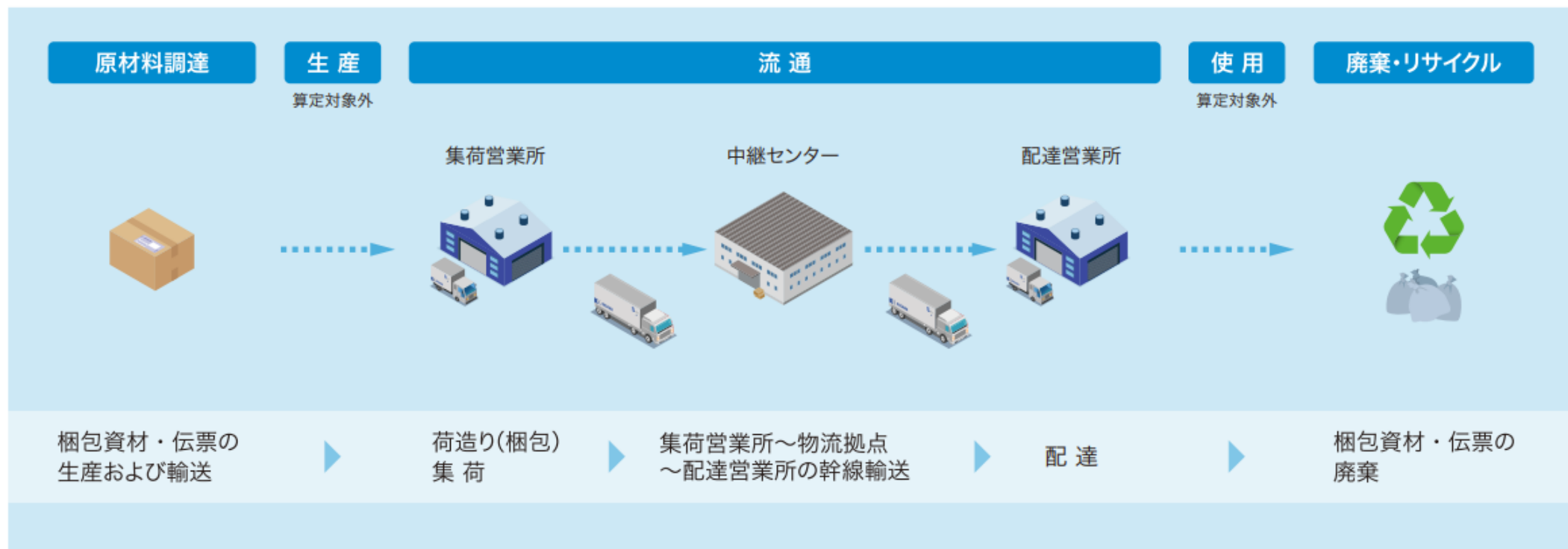
対象サービス

飛脚宅配便(3辺合計160cm以内・重量30kg以内のお荷物) ※平均重量で算出

算定単位

1個当たり

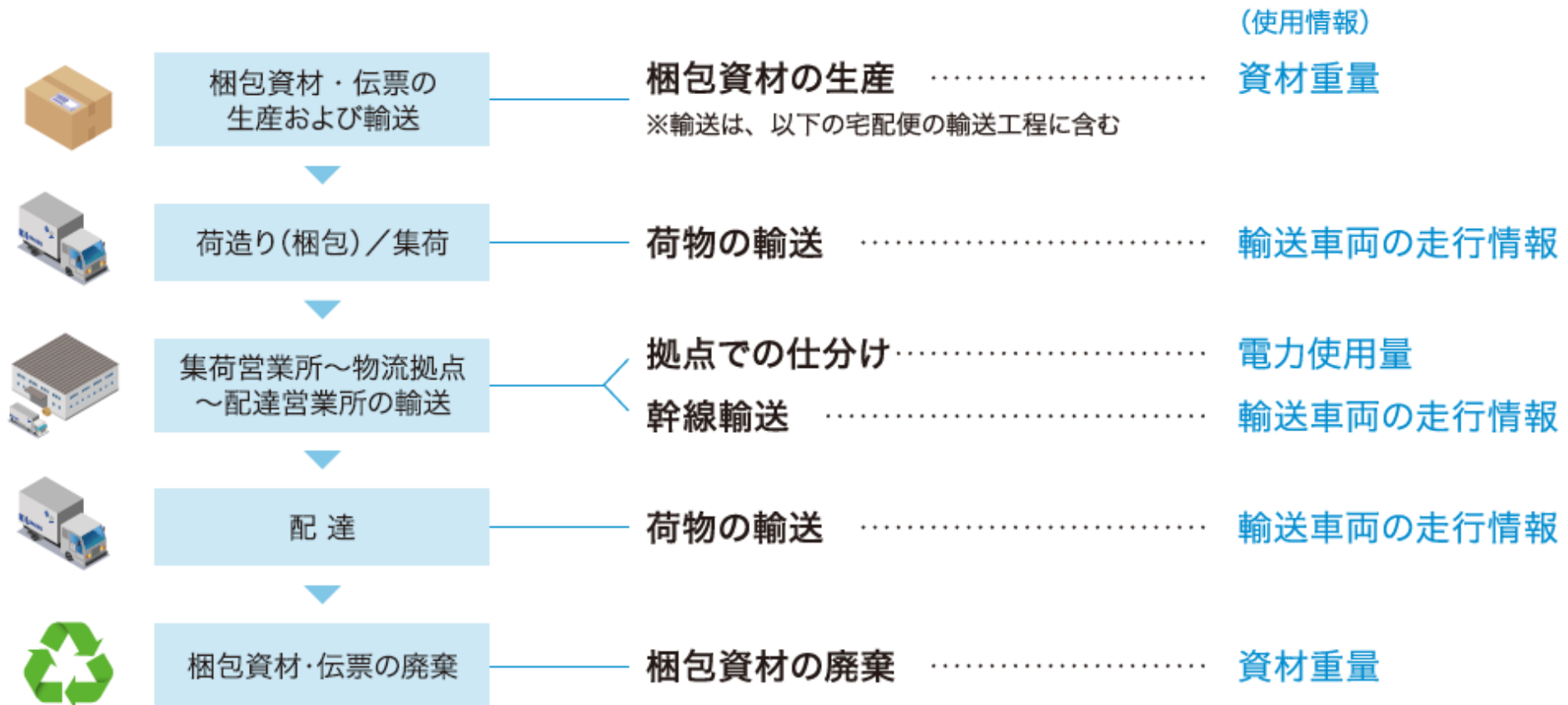
対象とするライフサイクルステージと構成要素



※佐川急便の最も頻度が多く代表的な輸送ルートを採用し、平均的な距離、重量を算出した上で、CFPを計算しています。

使用したデータに関する情報

活動量データは一次データ(実測値、実測値の配分)の収集を基本とし、一次データが困難な場合には、二次データやシナリオを活用しました。



使用したデータベース・参照企画/カットオフの対象

◆ 使用したデータベース:

- ・ 国立研究開発法人産業技術総合研究所 安全科学研究部門 AIST-IDEA Ver.3.3
- ・ 環境省排出原単位データベース v3.4
- ・ 環境省・経済産業省公表 「電気事業別排出係数（特定排出者の温室効果ガス排出量算定用）－R4 年度実績－ R5.12.12」

◆ 参照規格:

- ・ カーボンフットプリントガイドライン/ ISO14067:2018（関連規程含む）を参照

◆ CFP算定対象とした期間:

- ・ 2023 年度のデータを基本として算定（一部データは前後するものもある）

◆ カットオフの対象:

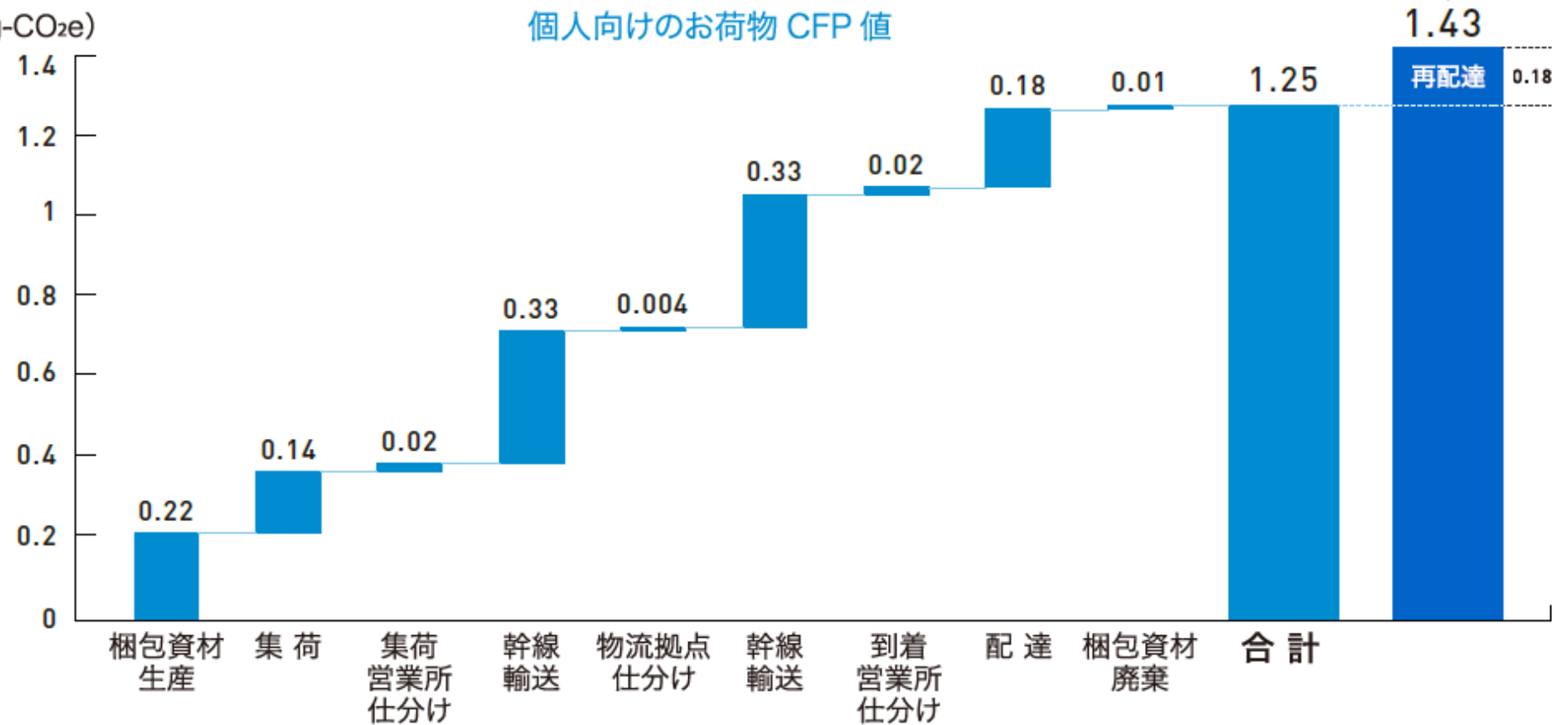
- ・ なし

算定結果（個人向けお荷物）

飛脚宅配便1個当たりのCFPは、個人向けのお荷物 1.25kg-CO₂eです。

個人向け CFP 詳細

(単位 :kg-CO₂e)



算定における課題・不確実性

実測値が確認できない工程は、シナリオを使用しており実際の状況を反映していない部分があります。

・ 消費者の出す廃棄物（梱包資材）の輸送・廃棄物処理

輸送ルート、距離、荷物重量、使用する車両はさまざまであるが、それらすべての情報を用いて算出することは困難なため、代表となる工程や平均情報を用いて算出しています。

再配達抑制に向けた取り組みの推進

今回のCFP算定結果を踏まえて、社会問題の一つである再配達に係る排出量や与える影響を可視化し、消費者と一体となった再配達抑制に向けた取り組みを検討、実行していきます。

また、環境負荷の大きい工程に着目して排出削減に取り組んでいきます。

CFP 算定の正確性の向上

シナリオを設定した工程などは、今後実測値の取得ができるよう継続的にCFPの算定手法を見直すことで、削減効果を反映した算定や、実態に則した算定を目指し、結果の正確性をさらに高めていきます。

Chapter 3

CO2排出量可視化サービス

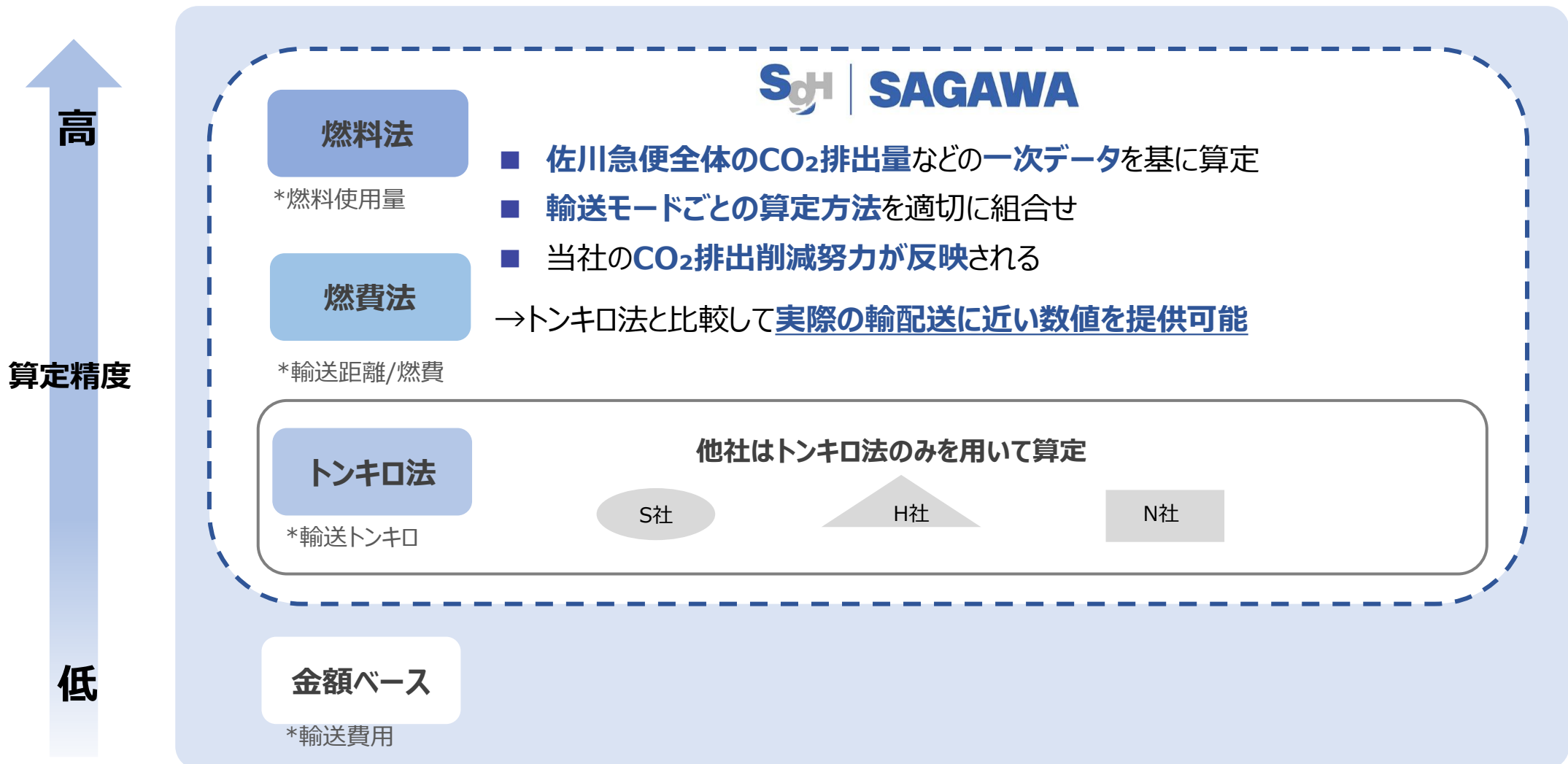
Green Solution



他社比較









CO₂排出量の算定方法は、「燃料法・燃費法・トンキロ法・金額ベース」の4種類

当社では、**一次データを使用する佐川急便独自の算定方法とトンキロ法の2種類のレポートをご用意しています**



CO2排出量可視化ロジック（算定式について）

一次データを使用する佐川急便独自の算定方法

輸送工程	集荷（発送人→発店）	幹線（長距離）輸送 （中継センター→中継センター）	配達（着店→受人）
輸送モード	 or  自社車両 協力会社車両	 or  or  or  協力会社車両 鉄道 内航船 航空機 ※複数使用の可能性あり	 or  自社車両 協力会社車両
算定方法	燃料法 ※協力会社車両分は推定	協力会社車両 : 燃費法（推定） 鉄道・内航船・航空機 : 従来トンキロ法	燃料法 ※協力会社車両分は推定
算定式 （荷物1個あたり）	燃料使用量×CO ₂ 排出係数（※1） ×荷物1個あたりの重量按分率（※2）	燃費法(推定) : (輸送距離÷燃費) × CO ₂ 排出係数（※1） ×荷物1個あたりの重量按分率（※2） トンキロ法 : 輸送トンキロ×CO ₂ 排出原単位（※1）	燃料使用量×CO ₂ 排出係数（※1） ×荷物1個あたりの重量按分率（※2）

※1 算定方法に応じて国が定める排出係数、排出原単位を使用









※2 取扱い荷物全体に占める重量の割合

ポイント

- 佐川急便全体のCO₂排出量などの一次データを基に算定
 - 当社のCO₂排出削減努力が反映される
- トンキロ法と比較して実際の輸配送に近い数値を提供可能

CO2排出量可視化ロジック（算定式について）

トンキロ法

輸送工程	集荷（発送人→発店）	幹線（長距離）輸送 （中継センター→中継センター）	配達（着店→受人）
輸送モード	 or  自社車両 or 協力会社車両	 or  or  or  協力会社車両 or 鉄道 or 内航船 or 航空機 ※複数使用の可能性あり	 or  自社車両 or 協力会社車両
算定方法	改良トンキロ法	協力会社車両 : 改良トンキロ法 鉄道・内航船・航空機 : 従来トンキロ法	改良トンキロ法
算定式 (荷物1個当たり)	輸送トンキロ×CO2排出原単位 (※1)	改良/従来トンキロ法 : 輸送トンキロ×改良/従来トンキロ法CO2排出原単位 (※1)	輸送トンキロ×CO2排出原単位 (※1)

※1 算定方法に応じて国が定める排出係数、排出原単位を使用

ポイント

- **現状多く使われている算定方法**（一次データを取得できる企業は限られるため）
 → **急に算定方法を変えることが難しい・他社と足並みをそろえたい**お客様におすすめ

アウトプットイメージ①

CO₂排出量レポートのイメージは、下記のとおりです（全5シート）

サマリ



CO₂排出量レポート【一次データ使用】

1. お客様情報

会社名	お客様コード (請求先顧客番号)	住所
株式会社ABC電気	1234567890	東京都○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○

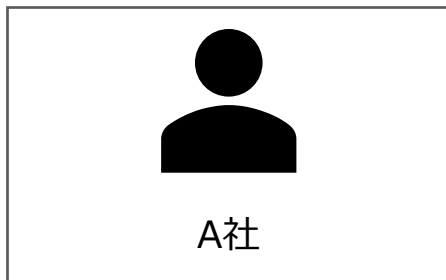
2. CO₂排出量サマリ

対象年月	2024/6/1 ~ 2024/6/30	(構成比)	(補足)	(前月数値)	(前月比)	(前年数値)	(前年比)
対象荷物数量 ※1 個数	1,000 個	-		0 個	+0%	0 個	+0%
重量	3,000,000 t	-		0 t	+0%	0 t	+0%
CO ₂ 排出量 ※2 全体	45,000 t-CO ₂	100.00%		0 t-CO ₂	+0%	0 t-CO ₂	+0%
集荷	10,000 t-CO ₂	22.22%	集荷拠点数: 5 拠点	0 t-CO ₂	+0%	0 t-CO ₂	+0%
施設利用	3,000 t-CO ₂	6.67%		0 t-CO ₂	+0%	0 t-CO ₂	+0%
路線	25,000 t-CO ₂	55.56%	路線区間数: 26 区間	0 t-CO ₂	+0%	0 t-CO ₂	+0%
トラック ※3	(10,000 t-CO ₂)	(40.00%)	路線区間数: 11 区間	(0 t-CO ₂)	+0%	(0 t-CO ₂)	+0%
鉄道 ※3	(8,000 t-CO ₂)	(32.00%)	路線区間数: 7 区間	(0 t-CO ₂)	+0%	(0 t-CO ₂)	+0%
内航船舶 ※3	(4,000 t-CO ₂)	(16.00%)	路線区間数: 5 区間	(0 t-CO ₂)	+0%	(0 t-CO ₂)	+0%
国内航空 ※3	(1,000 t-CO ₂)	(4.00%)	路線区間数: 3 区間	(0 t-CO ₂)	+0%	(0 t-CO ₂)	+0%
配達	7,000 t-CO ₂	15.56%	配達拠点数: 15 拠点	0 t-CO ₂	+0%	0 t-CO ₂	+0%

3. 輸送トンキロ ※4

区分	燃料	最大積載量 (kg)	荷物数量 ※5	荷物重量	輸送量 (トンキロ) ※6	構成比
貨物自動車	揮発油	0 ~ 499	500 個	1,800,000 t	4,500,000 t・km	38.46%
	軽油	2,000 ~ 3,999	300 個	500,000 t	750,000 t・km	6.41%
		10,000 ~ 11,999	1,000 個	1,000,000 t	5,000,000 t・km	42.74%
船舶	-	-	250 個	800,000 t	1,000,000 t・km	8.55%
鉄道	-	-	150 個	500,000 t	375,000 t・km	3.21%
航空機	-	-	50 個	300,000 t	75,000 t・km	0.64%

CO₂排出量レポートの活用事例をご紹介します

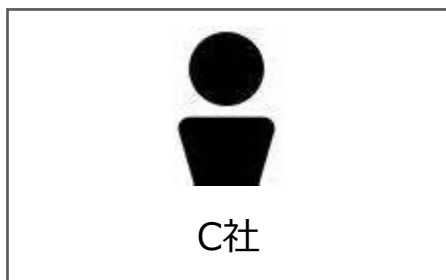
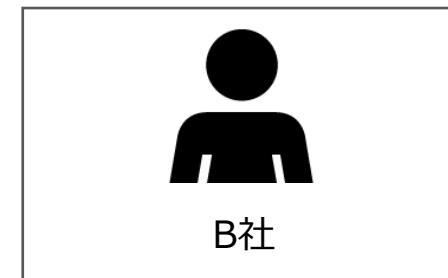


● **現状把握とCO₂削減ソリューションのご提案**

→まずはCO₂を見える化して、**現状把握**
その結果を踏まえ、**CO₂の削減ソリューションをご提案**

● **企業価値の向上**

→**決算説明資料**や**統合報告書**・**ホームページ**などに公開し**情報発信**
ESG経営をアピール



● **国への報告や顧客への提供**

→**特定荷主の定期報告書**作成に活用・顧客への提供も可能

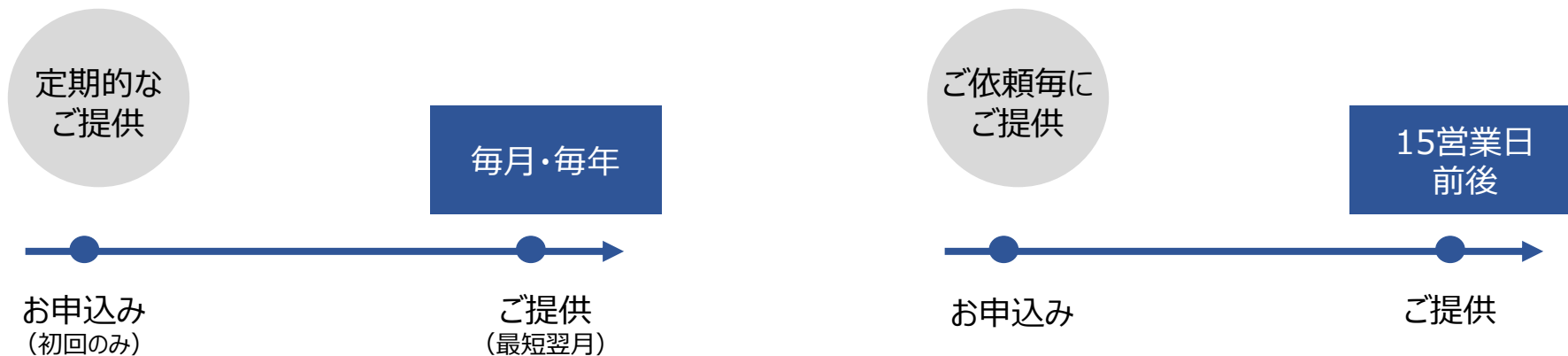
特定荷主 定期報告書

報告項目	報告範囲	報告内容			
		数量	CO ₂ 排出量	削減率	削減効果
CO ₂ 排出量	～100	100	100	0%	0
	100～1,000	1,000	1,000	0%	0
	1,000～	10,000	10,000	0%	0
	～100	100	100	0%	0
	1,000～	1,000	1,000	0%	0
	10,000～	10,000	10,000	0%	0
削減率	～50%	50%	50%	0%	0
	50%～	50%	50%	0%	0
	～50%	50%	50%	0%	0

スケジュール・費用

レポート提供スケジュール

CO₂排出量可視化サービスは、**定期的なご提供**（月次・年次レポートを継続してご提供）と**ご依頼毎にご提供**の2パターンからお選びいただけます



費用

ご提供するレポートの数量に関係なく、**全て無料**でございます。